

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2015年12月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 11月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・市場実勢ともにじりじりと下落する展開となった。なお、10月末には基準値と市場実勢が0.5%も乖離し、“基準値と市場実勢の大幅乖離が復活するのでは？”との懸念が浮上していたが、その乖離は一時的なものに終わった。
- 12月の人民元（市場実勢）は1米国ドル=6.40元を中心としたボックス圏での推移を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.35~6.45元）。12月前半は米国で利上げが予想されるため下値を試す展開となり易い。その後は一旦、材料出尽くしから上値を試す可能性もあるが、人民元が上値を試すには力不足で、買戻しがあっても小幅かつ一時的だろう。

[11月の動き]

11月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・市場実勢ともにじりじりと下落する展開となった。基準値の当月高値は第1営業日（2日）に付けた1米国ドル=6.3154元、当月安値は最終営業日（30日）に付けた同6.3962元となり、11月は前月末比で0.7%の元安・ドル高となった。一方、市場実勢（スポット・オファー、中国外貨取引センター）は、4日に付けた1米国ドル=6.3361元が当月高値、最終営業日（30日）に付けた同6.3982元が当月安値となり、11月は前月末比で1.3%の元安・ドル高となった（図表-1）。

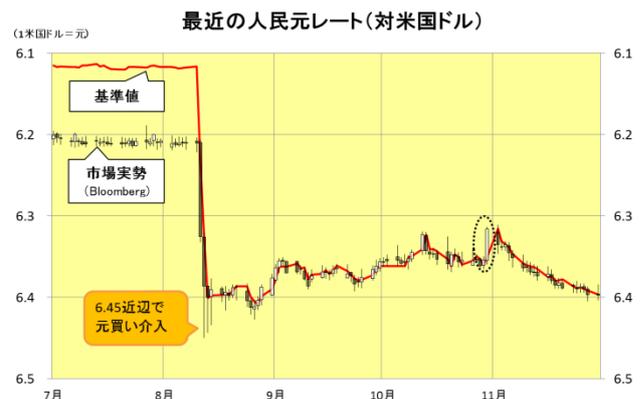
なお、10月末には基準値と市場実勢が0.5%も乖離し、市場では“基準値と市場実勢の大幅乖離が復活するのでは？”との懸念が浮上していたが、その乖離は一時的なものに終わり、11月初旬には解消することとなった（図表-2）。

(図表-1) 人民元（対米国ドル）の価格推移

	基準値		市場実勢	
	前日比	(注)	オファー	ビッド (注)
10月末	6.3495	-	6.3182	6.3180
11月2日	6.3154	▲0.0341 (当月高値)	6.3376	6.3371
11月3日	6.3310	0.0156	6.3364	6.3358
11月4日	6.3343	0.0033	6.3361	6.3357 (当月高値)
11月5日	6.3381	0.0038	6.3464	6.3461
11月6日	6.3459	0.0078	6.3530	6.3530
11月9日	6.3578	0.0119	6.3624	6.3619
11月10日	6.3602	0.0024	6.3621	6.3617
11月11日	6.3614	0.0012	6.3677	6.3672
11月12日	6.3628	0.0014	6.3694	6.3692
11月13日	6.3655	0.0027	6.3740	6.3735
11月16日	6.3750	0.0095	6.3723	6.3700
11月17日	6.3740	▲0.0010	6.3786	6.3786
11月18日	6.3796	0.0056	6.3849	6.3847
11月19日	6.3791	▲0.0005	6.3835	6.3825
11月20日	6.3780	▲0.0011	6.3855	6.3850
11月23日	6.3867	0.0087	6.3895	6.3890
11月24日	6.3888	0.0021	6.3893	6.3890
11月25日	6.3877	▲0.0011	6.3895	6.3892
11月26日	6.3896	0.0019	6.3896	6.3895
11月27日	6.3915	0.0019	6.3954	6.3945
11月30日	6.3962	0.0047 (当月安値)	6.3982	6.3981 (当月安値)

(資料) CEIC (中国外貨取引センター)

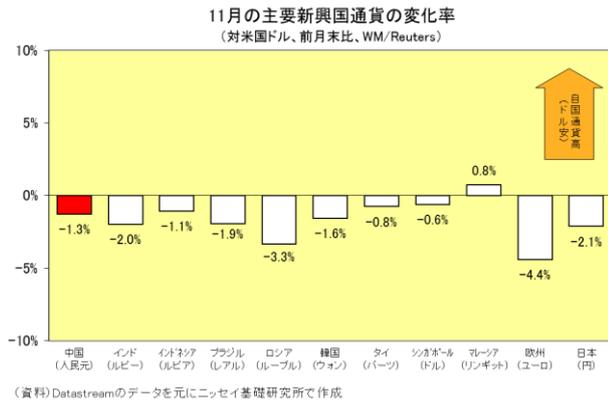
(図表-2)



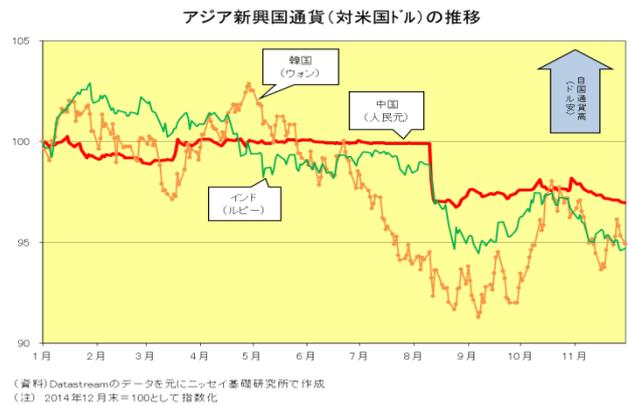
(資料) Bloombergのデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

一方、世界の通貨の動きを見ると、主要通貨では欧州ユーロが米国ドルに対して前月末比 4.4% 下落、日本円も同 2.1% 下落と、主要通貨に対して米国ドルが買われた。また、新興国通貨に対しても米国ドルは概ね堅調で、ロシア（ルーブル）が同 3.3% 下落、インド（ルピー）が同 2.0% 下落、ブラジル（リアル）が同 1.9% 下落、韓国（ウォン）も同 1.6% 下落となった（図表-3）。新興国通貨が概ね軟調に推移する中で中国の通貨（人民元）も下落した。8月に中国人民銀行が人民元の基準値の形成メカニズムを改善して以降、新興国通貨の動きとの連動性が強まっている（図表-4）。

（図表-3）



（図表-4）



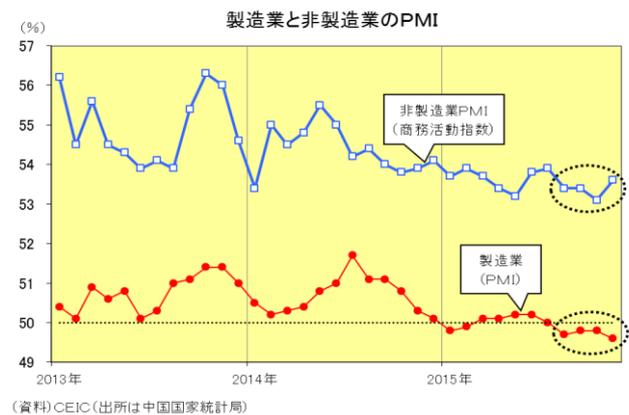
【 今後の展開 】

さて、12月の人民元（市場実勢）は1米国ドル=6.40元を中心としたボックス圏での推移を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.35~6.45元）。

12月前半は下値（1米国ドル=6.45元）を試す展開となり易いだろう。米国では12月中旬に連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。そこで、利上げを決定するとの予想が有力となっており、米国ドルへの資金回帰が起きて新興国通貨は弱含むと見られるからである。その後、12月後半になると人民元は上値（1米国ドル=6.35元）を試す展開になる可能性がある。市場では米利上げを既にだいぶ織り込んでいると見られることから、事前の予想通りに利上げが決定されれば、材料出尽くしからポジション調整の利食い売りが優勢となって、人民元を含む新興国通貨に買戻しの動きがでてくるかもしれないからである。但し、その買戻しの動きは小幅かつ一時的に終わるだろう。というのは、中国で12月1日に発表されたPMIは製造業・非製造業ともに冴えない内容で、人民元が上値を試すには力不足だと考えられるからである（図表-5）。

なお、来年10月から人民元がSDRの構成通貨に加わることになったが、当面の相場への影響は小さいと見ている。

（図表-5）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。